



新しい取り組みを次々に“創造” 株式会社フジワラが仕掛けた 静岡県の“茶畑革命”。

グリッドパリティをも見据え、メガソーラーの設置価格を相場より2〜3割安くしているフジワラ。異業種参入組だからこそできるアイデアがコストダウンを実現している。

写真／日置真光（日置真光写真事務所） 取材・文／藤本健

次々と飛び出すアイデアが太陽光発電の世界を変える

現在、メガソーラーをはじめとする大型案件を数多く手がけているフジワラ。同社が太陽光業界に入ったのは2011年の3・11以降であるため、その歴史は意外と短い。この短期間で急成長の理由はどこにあるのだろうか？

「日本のメガソーラーの設置工事は人海戦術となっており、とにかく人件費が高い。海外を見ても、もっと機械化が進んでおり、効率よく設置していくので当社でもそうした考え方を取り入れています。また、パネルも中国製を採用し、コストダウンを図っています。その結果、業界平均2億8万円〜3億2千万円といわれる導入費を2億4千万円以下で実現したことが顧客の拡大につながっています」と話すのは代表取締役の木村理氏（※1）。

しかし中国製を使うことで、品質的に問題はないのだろうか？

「最初に、中国の工場を見学しに行ったときにその作業工程を見て驚きました。ほとんどすべて自動化生産がされており、これなら日本も中国もあります。最終工程でレントゲンのような検査機で性能チェックを行っており、ごまかしようがないんですよ。規模が大きいために1日で2MW程度の生産を行っているから、コストが圧倒的に安いんですね」と木村氏は指摘する。だからこそ、ヨーロッパのメガソーラーで中国製品が大きなシェアを取っているわけだ。

その木村氏が太陽光のビジネスに参入したのは、3・11による停電で自社の屋根に太陽光発電を設置しようと考えたのがキッカケだ。

「設置しようと思ったのは20kWだったのですが、業者に見積もりを取ったところkW単価が60万円、1200万円と驚く高さでした。でも、調べてみると工事自体は簡単だし、中国の知人に聞いたところ、パネル価格は日本の1/5程

※1



株式会社フジワラ
代表取締役

木村 理氏

もともと土木工事を中心に展開してきた株式会社フジワラの木村氏。従来から持つアジア各国とのネットワークを生かしながら、まったく新しい手法でメガソーラーの設計、施工を展開している。

※2

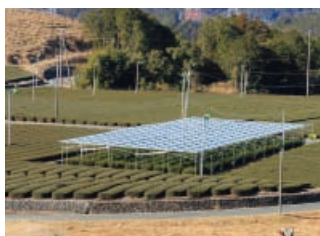
独自開発の架台

システム価格全体の中で大きな位置を占める架台。国産品だと非常に高くなるが、同社の土木の経験を活かして設計したものを、中国企業に委託して生産することで大幅な低コスト化を実現している。

※3

お茶の価値を向上

日照が強い牧之原市周辺は煎茶用のお茶が中心で出荷価格も安くなってしまう。太陽光パネルを設置して日照を弱めることで、抹茶用の生産が可能になり、価格を3倍近くに向上できるのだ。





度。架台（※2）も別の中国メーカーに依頼して作ってもらったところ、ずいぶん安く導入できたのです。それをキッカケに太陽光のビジネスへと入っていったのです」と木村氏。

このエピソードからわかるとおり、木村氏はアグレッシブに活動すると同時にかなりのアイディアマン。もともと土木工事の請負、設計、施工を行ってきた経験があるだけに、工事に必要な工費用重機や工具などは次々と自社で作ってしまい、次々と独自の工法などを編み出している。また古くからアジア各国を回りながらパートナー企業を増やし、ネットワークを広げてきたことも太陽光発電のビジネスにも生かされているのだ。

そのアイディアは、太陽光発電における新規ビジネスも生み出している。その一つが茶畑発電だ。

「静岡県牧之原市で、茶畑で当社が20年間の契約で太陽光発電をするというユニークな取り組みを始めました。パネルを設置すると、茶畑の日当たりが悪くなってしまうのですが、実はそのことが茶畑農家に大きなメリットを与えるのです（※3）。結果的に茶畑農家も儲かるし、当社も発電にとって条件のいい場所を安く借りることができ。まさにウィン・ウインの関係が実現できているんですよ」と木村氏。

このように次々と新しいアイディアを出しては、新規ビジネスを事もなげにスタートさせてしまう。これが株式会社フジワラの快進撃の原動力であることは言うまでもない。

「メガソーラーの工事をしてる業者の多くは土木工事の経験がないので、架台の設置の面でオーバースペックになったり（※4）、トラブルも起こりがち。最適な設計でコストダウンを図ることができるのも当社の強みです」と語る木村氏。こうした低価格化の実現により、買電価格と発電価格の均衡が取れるグリッドパリティの実現も視野に入ってきている（※5）。

※4

架台に必要な強度

ビルと違いパネル自体は非常に軽いため、過度に深い基礎工事は不要。それより風に飛ばされないよう、ひっぱり強度を計算した上で適切な工事を行うのがポイントだ。

※5

グリッドパリティ

現在、日本でグリッドパリティを実現するには一般的に1MWあたり2億円程度で設置することが必要。すでに2億4000万円を切るところまで来ているので、もう少しで実現可能となっている。

FUJIWARA

問い合わせ：株式会社フジワラ エネルギー事業部
千葉県鎌ヶ谷市南鎌ヶ谷1-101-14
☎047-444-7600
www.megasolar-fujiwara.com